

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	駒木 おさみ
視察地	沖縄県那覇市		
調査事項	新真和志複合施設建設事業		
視察年月日	令和5年11月7日		
視察内容	<ul style="list-style-type: none">平成23年、当時の市長から市民会館跡地に複合施設の構想案が発表。令和元年、基本方針を作成。コミュニティ機能、図書館、教育相談課関係機能、こども発達支援センター、障がい者福祉センターなどが複合する。那覇市の大きく4つに分かれている地域を対象に、比較検討を行った結果、老朽化が進む真和志の拠点整備をしようとした。真和志は旭川市民文化会館より少し小さい面積は867.656㎡。那覇市役所からは徒歩圏内では厳しい場所ではあるが、将来的に、モノレールの恩恵も受けられない場所でもあり、交通の利便性を高めていこうと周辺から人が集まりやすい場所という。老朽化した真和志庁舎が移転となることから現真和志支所の入居施設の維持の観点から設置候補施設に決定。ファシリティマネジメント推進の観点から、一定程度現面積より縮減し、自治体の体力に見合った経営ができるようにと面積を15から20%減らしていきたいという。複合化することで、維持管理費の適正化と歳入の確保に努めようとする共用部分が一緒に使える、各市に点在する施設を集めようと動き出しました。大ホールは、那覇とハートをかけた名称「なは一と」という令和3年度に完成したのがあるが、市民の声が反映された要請意見は、中ホール機能は複合施設に残してほしいとの声。課題は、福祉施設である。点在していた施設を複合してほしいと望む声があったが、移動導線、共用することで何か利用者同士で困ることが起きるかもしれない想定など、共用部では細かい設計に具体的に案が出てきた、調整していくのが大変だが、利用者目線で設計が進むように設計者に希望を見出したいとあります。ご説明いただいた場所は、建設から10年になる那覇市役所。魅力あるイタリア建築で、設計者は環境に配慮された造りを専門にされている。外壁全体にはツル性の植物で暑い沖縄が清涼感で溢れていた。旭川市では、文化会館の建て替え基本計画がある。文化振興にご尽力されている方々の要望反映と調整が必要で、老朽化が進む施設であるため安心安全にご利用いただくため建て替え計画と、周辺エリアを含めた持続可能な検証を行うことが大切である。		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	駒木 おさみ
視察地	沖縄県浦添市		
調査事項	美味しい給食推進事業／認可保育園での給食給食ケータリングについて		
視察年月日	令和5年11月8日		
視察内容	<p>美味しい給食推進事業</p> <ul style="list-style-type: none">・三期目になる市長は、一期目から公約に掲げていた「給食無償化」・物価高騰があった際にも「給食は大丈夫か」と気かけられ、市長のリーダーシップから、「日本一の給食を目指す」宣言。また浦添市は「キッズファースト宣言」を掲げています。・何よりも子どもたちを一番に考えていることのなかに「給食事業」がありました。 <p>・4月から、保護者負担はそのまま小学生で400円、中学生で500円を公費で上乗せし、総額約5800万円を予算に追加し給食の「質」をあげました。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校給食は2か所の調理場があり、「食育」を学校給食の一環として位置づけられ、運営組織は、運営委員会と運営連絡協議会で調査審議。・郷土愛を育むため、琉球漆器を利用した給食提供の準備を進められている。・子どもの貧困対策の一環として必要な栄養の確保、不登校減少への一助となることを期待する教育関係者もいるとのこと。献立を見させていただいたが、地産地消の推進で琉球料理が豊富にあり、見るも美味しそうな献立表です。「骨ごと食べられるさんま」「感謝の気持ちを忘れずに」などの一日一言メッセージが添えられているのも浦添市の優しさを感じました。 <p>認可保育園での給食ケータリングについて</p> <ul style="list-style-type: none">・保育園現場では、保育以外での業務が大きな割合を占めており、給食業務を委託したことで負担軽減され、時間を確実に増やし見守りが強化されました。・自主的に活用できる国の予算「沖縄振興一括交付金」の約2000万円を財源に、認可外施設への給食ケータリング事業を2023年度から27年度まで実施することを決定した。 <p>・本市においても、物価高騰が追い打ちをかけるが、栄養豊富な地産地消の給食から育ち盛り子ども達に美味しい給食を提供できるように、調理の業務負担や人手不足も含め現場確認し検証していきたい。</p> <p>・最後に、当日の給食を美味しくいただきました。予定には無かったが、その真心が「美味しい給食」そのものを物語っているように感じました。</p>		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	駒木おさみ
視察地	東京都渋谷区		
調査事項	部活動地域移行について		
視察年月日	令和5年11月9日		
視察内容	<p>・セキュリティ万全の渋谷区役所に入ると、随所にお洒落な工夫がされていました。 シブヤ部活動改革プロジェクトの「シブヤユナイテッド」のロゴマークもお洒落なデザインで躍動的。本市の女性活躍推進部のロゴマークも柔らかい印象と特徴がわかりやすく素敵です。ワンチームで取り組む改革プロジェクトには、目指していく旗印のようなロゴデザインは職員のモチベーションも上がる一つであるように感じました。</p> <p>・シブヤ部活動改革の始まりは、学校によって設置されていない部活動や、障がいのある生徒等、多様なニーズに応えるため部活動の合同化を推進することと、教員の負担軽減へと適切な指導体制構築へと動き出しました。</p> <p>・モデル校の運営体制を整え、区職員をスーパーバイザーとして配置し、三者が連携する仕組み①学校長へ報告相談②教員へ生徒に関する情報の共有③クラブマネージャーやスーパーバイザー補佐と常時連携する。区としては、スポーツ部と教育委員会が連携する。ユナイテッドクラブの種目には、サッカー、ボウリング、ダンス、フェンシング、ボッチャ、ラグビー、将棋、デジタルクリエイティブなどの10種目があり、支援団体は大手企業や団体、協会が事業を支えている。他にも各大手企業団体などから、支援団体候補に名乗り出てくるほどの流れになってきているとのこと。専門的指導への満足度が、生徒や保護者からも人気が高いことが理解できます。</p> <p>・本市での地域移行の可能性を想定すると、指導者の確保、プロスポーツチームの協力、一流IT企業が協力などとシブヤのような条件は、比較対象にならないかもしれないが学校の先生方の負担は全国的な問題である、部活動の維持だけのものでもなく、従来の概念にとらわれず、学校も地域も新しい発想の転換で生徒主体に楽しめるよう検討し柔軟な対応が求められる。</p>		